

回覧													
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

# アクティブ長洲小

長洲町立長洲小学校だより  
 令和3年2月26日 第19号  
 文責 校長 川富 一弘

## 国の教育施策続々と

～ 令和3年度から35人学級の拡充、令和4年度から教科担任制の導入 ～

新学習指導要領改訂で、コロナ禍でのあおりも受け、文部科学省は、次なる策を公表しました。それが、1学級35人制の全学年への展開と、小学校高学年での教科担任制です。

35人制は、現行法では、現在小学校1年生のみが実施されており、その他の学年は40人が定数となっています。それを来年度から段階的に一学年ずつ広げていくということです。熊本県では独自に2年生を35人制にしており、実質令和4年度からその恩恵を受けることとなります。中学校でも1年生のみを次年度から35人制にするそうですが、将来的には30人学級まで減らす方向性も出ているようです。

一方、中学校では当たり前の教科担任制ですが、小中学校の接続をスムーズにするために小学校高学年(5・6年生)において、算数、理科、英語などの教科に限って導入されるとのことです。本校ではこれまで理科は教科担任制をとっていましたが、算数、英語と広がることで、校内の体制も工夫が必要になります。職員の配置数がどうなるのか、カリキュラムは変わるのか、課題も山積です。大きく変わろうとする教育改革の波が止まりませんが、よく情報を収集して、遅れがないように対応していかなければなりません。

## 義務教育の始まりは、親の共育者としての学びの始まり

去る17日(水)、本来なら新1年生と保護者を迎える『新入生体験入学』の予定が、県の緊急事態宣言期間中ということで、保護者のみの参加による入学説明会を行いました。そこで校長挨拶の中で次の話をさせていただきました。

「親として、子供と共に成長しようという気持ち大切です。つまり、共育です。子供達が社会に出たときに、自立していろんな壁や困難に立ち向かうことができるような力を学校と家庭とで育てていくことが大切です。テクノロジーの進化にコロナ禍も加わり、先行きがますます見通せない今日、時代の流れに応じて、自分なりに対応できる力、周囲の力を上手に使いながら生き抜く力を育てていきましょう。」

参加者の約半数弱が、初めて小学校の保護者となる方々で、その他はすでに本校の保護者です。明らかに親世代が受けてきた教育とは違う授業スタイルであり、子供はもちろん家庭の在り方も多様化しています。そんな中での学校生活ですので、親の考え方、関わり方も時代に即した内容が変わっていかねばならないです。

親という字は『木の上に立って見る』と書きます。子供が失敗という貴重な経験をする度に親子で考え、一緒に乗り越える中で、共育は実現します。一方的に大人の独断と価値観で子供に関わることが、どれだけ子供の自尊感情や自己肯定感の育ちを阻害することか、自覚しておく必要があるのです。そして、この話の最後にはこう話しました。

「親が学び続けること、私たち教職員も学び続けます」

一日のほとんどの時間を預かる本校職員としての責任の重さを実感しながら、学び続けるのはもちろん私たち教職員も同じなのです。

# 特別支援教育とは

本校には、2つの特別支援学級(以下、支援学級)があります。親世代、祖父母世代には特殊学級と呼ばれる心身にハンディキャップを持つ子供が在籍する学級がありました。現在は、特別な支援を要する学級として、そのハンディキャップの種別ごとに分けられており、本校ではそのうち、自閉症・情緒障がい学級と肢体不自由学級の2つが設置されています。

右の写真は、1年生の体育授業での一コマです。運動途中に支援学級の友達の帽子が脱げたのか、通常学級の子供が拾って被せてくれたようです。まだ1年生ですが、こうした支え合う場面が両者にとって学び合い、助け合いの場になっているのがわかります。



二十年程前までの特殊教育の時代は、主に障がいのある児童に関することを指したのですが、特に情緒面の発達への研究及び理解が深まり、特別支援教育としての捉え方は、障がいの有無に関係なくすべての子供への取組へと変わっています。つまり、特別に支援の必要な子供への配慮や関わりはすべての子供にも適切な配慮や関わりとなる、という考え方です。本校では、特にすべての子供の主体性を育てることに重きを置いているので、この考え方は重要視しており、特別支援教育コーディネーターである松野教諭のリードのもと、定期的な情報共有の場である『(子供を)観つめる会』や『校内支援委員会』を開いては、子供の様子や望ましい関わり方について全職員で研修を行っているのです。今後も、会の質の向上について改善しながら進めていきます。

## 春が近づいてきました

本年度も残り登校日20日を切りました。学校正門前の梅もピンクの花が満開で、つい、隣の桜の木の様子が気になり目をやっけてしまいます。暖かい日はあるものの、まだ寒く冷え込む日もあり、花粉症など、体調管理も難しい時期を迎えています。

残り少ない学校生活ですが、学習発表会、お別れ遠足と、年度納めの行事も予定されており、どの学年もその準備はもちろん、学習のまとめに熱心に取り組んでいます。コロナ感染も今のところ落ち着いており、緊張感は持ちつつも、次年度の見通しもやや明るくなってきたような気がしています。「暑さ寒さも彼岸まで」と言いますが、そうなると3月23日の修了式、同24日の卒業式あたりまでは三寒四温の毎日が続くこととなります。コロナにも気を付けながらも、最終日まで気を緩めず努めていこうと思います。

校舎内で行う次の行事は以下の通り考えています。

2月26日(金)学習発表会・・・全学年集合での発表は行わず、会場には一学年ずつ入り行う。その後のPTA総会や学級懇談会は、実施するが、できるだけ短時間で行う。

3月24日(水)卒業式・・・・・・来賓参列はなし。卒業生の保護者は各2名まで。  
在校生は、5年生のみ(保護者の承諾ありの子供)で行う。

3月29日(月)退任式・・・・・・通常通り。

※両行事とも、来校される人すべてに、手指消毒、検温、マスク着用をお願いしています。